

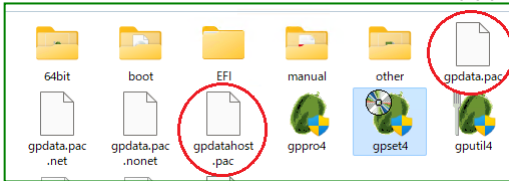
消去プログラムのネットワークブート

[GreenPepper PRO] Tutorials

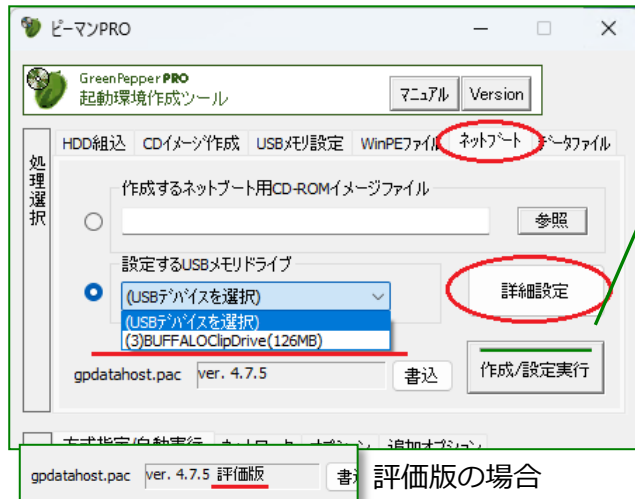
「ネットワークブートホスト」用 CD/USBメモリの作成

1 ダウンロード後解凍したフォルダ、または、製品CDメディアから、直接“gpset4.exe”をダブルクリックして、プログラムを起動します。

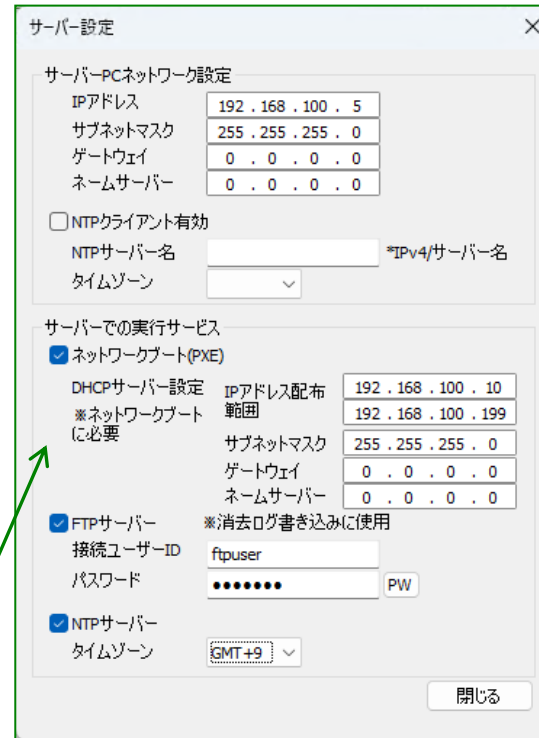
- “gpdata.pac”, “gpdatahost.pac”が、同じフォルダに必要です。
- “gpdatahost.pac”はオプション製品です。通常製品パッケージに付属しているものは「評価版」です。



2 「ネットブート」タブ（ページ）を使用します。「設定するUSBメモリドライブ」を選択するか、「作成するネットブート用CD-ROMイメージファイル」を指定してください。また「詳細設定」をクリックして詳細情報を設定します。



3 「サーバー設定」の画面で、サーバー機能、アドレスなどを指定します。ここでは、物理的に分離されたネットワークでの運用を想定し、設定例を示します。

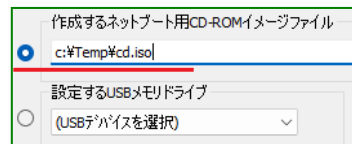


「IPアドレス」「サブネットマスク」は必須です。「ゲートウェイ」「ネームサーバー」は必要に応じて指定。

「ネットワークブート(PXE)」を有効にします。ネットワークブートを機能させるにはDHCPサーバーの設定・実行が必要です。配布IPアドレスの範囲、サブネットマスクの指定は必須です。配布アドレスは、ホストのIPアドレスと同一ネットワークにする必要があります。

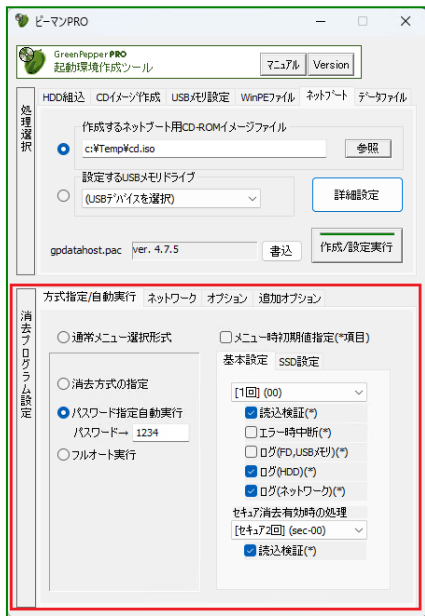
消去ログを、このホストPCに保存するためには「FTPサーバー」を有効にする必要があります。FTPサーバーにログインする「接続ユーザーID」「パスワード」を指定します。

CDイメージファイルを指定する場合

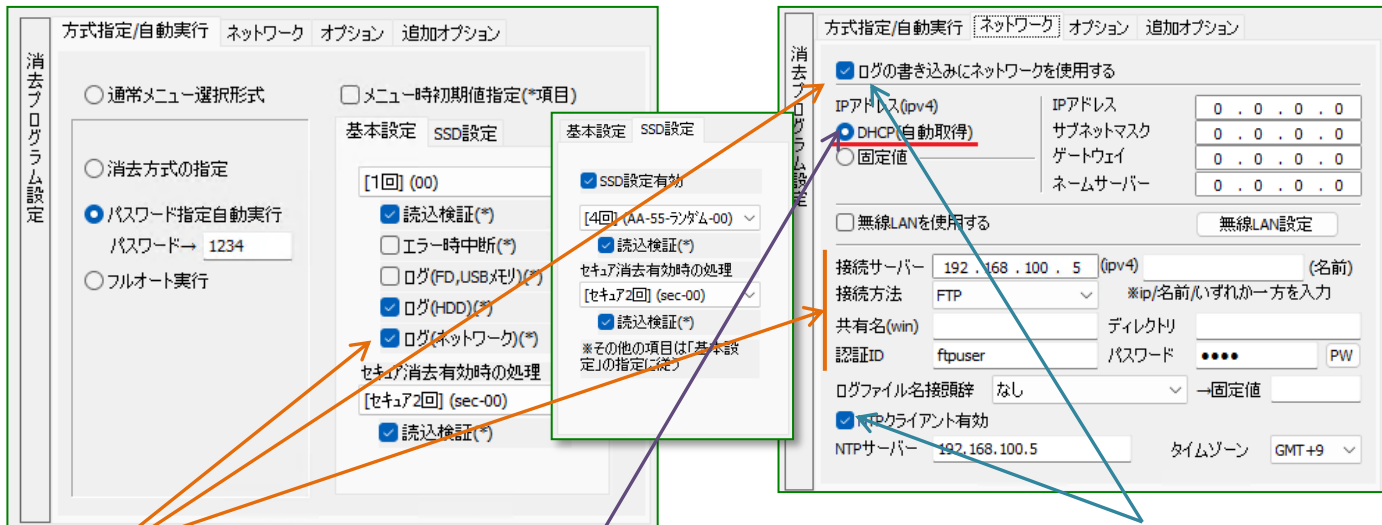


「NTPサーバー」は、クライアントPCの時刻を、サーバーPCと同期させる機能を提供します。タイムゾーンも設定します。

4 下部の「消去プログラム設定」は、ネットワークブートホストからダウンロードされ、実行される消去プログラムに関する設定になります。ここでは推奨設定の例を示します。



「パスワード指定自動実行」が選択されています。クライアントPCはネットワークブートした直後、パスワード入力画面が表示され、パスワードとして「1234」を入力すると、自動的に消去が始まる設定となります。



ログをネットワークブートホストに書き込む設定：

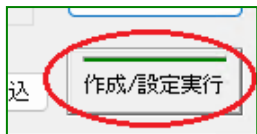
- ・「ログ (ネットワーク) 」のチェック
- ・「ログの書き込みにネットワークを使用する」のチェック
- ・「接続サーバー」にホストのアドレス(192.168.100.5)を指定
- ・「接続方法」は「FTP」
- ・「認証ID」「パスワード」はホストの「サーバー」設定で指定したもの

「IPアドレス」
はDHCP

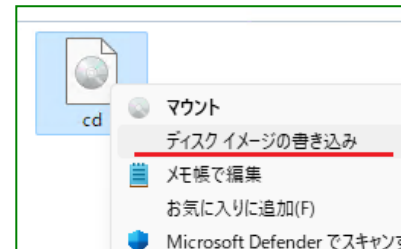
NTPによるネットワークブートホストとの時刻同期を有効にする：

- ・「ログの書き込みにネットワークを使用する」のチェック
- ・「NTPクライアント有効」にチェック
- ・「NTPサーバー」にホストのIPアドレス (192.168.100.5)を指定
- ・「タイムゾーン」を指定

5 「作成/設定実行」をクリックし、USBメモリの設定、CDイメージファイルの作成を行います。



6 CDイメージファイルの場合、イメージファイルからCD-Rへの書き込みが必要です。作成されたイメージファイル上でマウスの右クリック -> 「ディスクイメージの書き込み」で書き込んでください。
*Windows 11では、右クリック後、「その他のオプションを確認」の選択が必要



PCをネットワークブートホストとして起動

7

作成したCD/USBメモリをPCに挿入し起動します。起動が成功すると、右のメニュー画面が表示されます。

- ・USBメモリで起動する場合、ディスクレス、あるいは、内部のディスクを使用しないで実行・運用が可能です。
- ・CDでの起動の場合、FTPサーバーでのログ保存を必要としない場合、または、テスト運用の場合、ディスクレスが可能です。 ログ保管が必要な実運用時は、ディスクドライブ（内蔵、USB接続等）が必要になります。
- ・Hyper-V など、仮想環境での実行も可能です。

8a

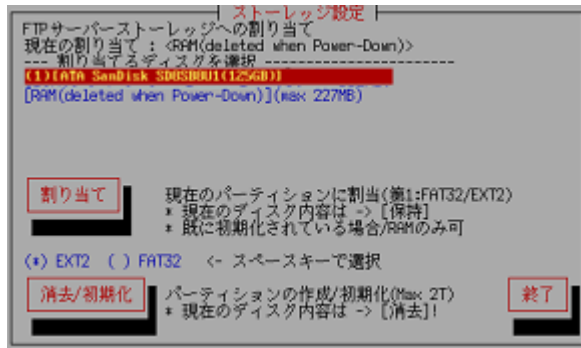
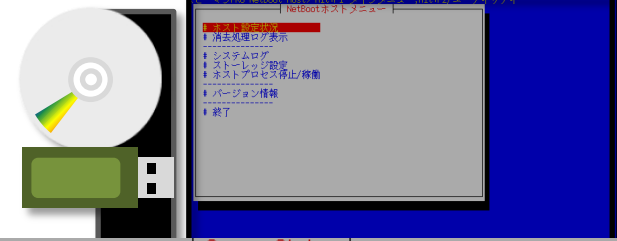
USBメモリ起動

メニュー画面で矢印キーで「ホスト設定状況」を選び、[enter]キーを押します。右の画面の、赤い下線部分が[Enabled][Running]<OK>の表示になっていれば問題なく動作し、**準備完了**です。アドレス等は設定により異なります。

8b

CD起動

CDは書き込みができないため、ストレージについて考慮する必要があります。FTPサーバーを使用した消去ログの保管をしないのであれば、上記と同様「ホスト設定状況」を確認し、“Network Boot: Enabled”になっていれば、これ以上の設定は不要です。



初期状態では、ストレージはRAM (memory)に割り当てられており、FTPサーバーで処理された消去ログはRAMに保管されます。RAM内のデータは電源OFF時に消えてしまいます。テスト使用の場合はそのまま構いませんが、実運用時は、以下の手順でHDD/SSDなどにストレージを割り当てる必要があります。メニューで「ストレージ設定」を選び[enter]。左の画面が表示されます。“---割り当てるディスクを選択---”に表示されているデバイスから一つを選び、[tab]キーで「割り当て」または「消去/初期化」に進み、[enter]で実行。

[割り当て]: デバイスの最初のパーティションがFAT32/EXT2でフォーマットされている場合、そのパーティションをストレージとして割り当てます。パーティションの内容は消去されずそのまま使用されます。[RAM]への割り当てはこちらを使用してください。
[消去/初期化]: デバイス全体が消去され、FAT32またはEXT2でフォーマット（初期化）されます。注意して実行してください。フォーマットタイプは、USBドライブなどWindowsからも使用する場合、FAT32の方が便利です。

メニューに戻り、上記USBメモリ起動の場合と同様「ホスト設定状況」を確認し問題なく動作していれば準備完了です。[Storage Status]には割り当てられたデバイスが表示されます。

クライアントPCのネットワークブートと消去

9

ネットワークブートホストと、消去するPCをイーサネットで接続します。
* 一部PCでは、WiFi(HPなど)、USB-Ether(Dellなど)によるネットワークブートが可能です。

ネットワークは、既存のネットワークとは物理的に分離して運用することをお勧めします。

* ネットワークブートホストではDHCPサーバーが稼働しているため、既存のネットワークに影響を及ぼします。

* 意図せず、日常使用のPCを消去してしまうことを防ぎます。

10

消去するPCの電源を入れ、ネットワークブートさせます。成功すると「ピーマンPRO」の消去プログラムがダウンロードされ、起動します。

PCをネットワークブートするには・・・

・ PCは、ネットワークブート(PXE IPv4)をサポートしている必要があります。

Legacy(BIOS) PXE、UEFI PXE どちらも可能です。

・ Windowsがまだ動作する場合は、[SHIFT]を押しながら[再起動]選択することで、起動デバイスの選択メニュー、UEFIの設定画面の表示が可能です。

・ PCの電源ON直後に、F12キー、F9キー(HP),あるいは他のキーで、起動デバイスを選択する起動メニューが表示される場合は、そこでPXEブートを選びます。

・ PCのBIOS(UEFI)設定で、PXEブートの起動優先順位を、上位にする必要がある場合があります。

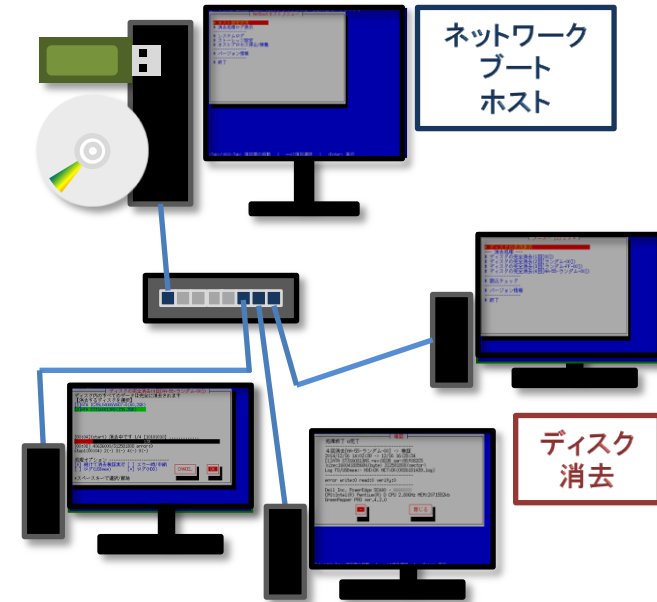
・ PCのBIOS(UEFI)設定で、“Secure Boot”を無効(Disable)にする必要がある場合があります。

11

起動後の操作は、通常の消去プログラム操作と全く同じです。

・ NTPクライアントを有効にした場合、起動時、ネットワークブートホストと時刻同時されます。

・ ネットワークログを有効にし、ログの書き込み先をネットワークブートホストにした場合、消去ログはネットワークブートホストに書き込まれます。消去ログは集中的にホストで管理される状態を作ることが出来ます。



起動画面 (UEFI PXE起動時)



起動画面(Legacy/BIOS PXE起動時)

